



甲佐町の陣ノ内城跡について

(地域課題)



学校名

熊本県立甲佐高等学校

1 探究のきっかけとねらい

将来に向けて地域と連携した活動をクロスプランと命名された探究の時間や公共の授業において課題を模索していくなかで、甲佐町にある国指定の陣ノ内城跡について学び、将来に向けた活用と誇りを見出す探究を進めた。

2 探究の方法

城跡のここと、活用のために学ぶ体制を構築する。陣ノ内城跡を国指定に推進された、甲佐町教育委員会社会教育課、上高原氏に指定の経緯や特徴を学ぶ。活用方法や提言に向け、熊本大学工学部土木建築科田中准教授に学ぶ意義や提言のしかたについて学ぶ。

事前学習を進めたうえで、フィールドワークを実施し、そこで学んだことから1年生各自が、地域課題としてまとめた。そのうえで、数名で探究活動の校内発表に取組、学びを深め町の提言につなげる。

3 探究の成果

・事前研修で、熊本大学田中先生から学びを深め6月下旬、熊本大学生と陣ノ内城跡に行き甲佐町上高原氏に陣ノ内城跡の特徴などをわかりやすく教えてくれた。



・面の山と呼ばれる標高100m程の小高い丘陵に位置します。東西210m以上、南北190m以上に及び、北西と南東に虎口（こぐち）を持つ正方形の城跡です。堀の高さは5から6m、一辺の長さは約2mで、石垣がないところが特徴的で珍しいです。城跡は、江戸時代中期阿蘇大宮司の館跡と伝えられていました。ですが大規模な発掘調査の結果、城の構造は豊臣系大名の城に共通するもので、これは阿蘇大宮司の館跡ではなく城跡だとわかりました。

感想抜粋 「甲佐町に、こんな凄い城跡があったのが驚きです。これからも甲佐に住んでるものとしてこの城跡を大事にしていきたいです。」「身近なところに、こんなに大きな城跡があって驚きました。」

参考：甲佐町役場ホームページ

<https://www.town.kosa.lg.jp>



・天正16年（1588年）に入部した小西行長が、阿蘇氏の拠点が置かれた場所に築城したことがわかった。以下の点からである。

1) 佐々成政は実質半年しかいなく、この頃熊本では一揆が起きていたので、一揆を抑えるのに忙しく築城する余裕がなかった。

2) 加藤清正（細川氏も）は筆まめな人で慶長9年（1604年）～12年（1607）頃の『肥後国絵図』に陣ノ内城が記されていない。

・小西行長は戦国時代から安土桃山時代にかけてのキリシタン大名。豊臣政権の下で大名に出世した戦国武将や、所領を安堵された戦国大名がいたことも学んだ。

・肥後国の当時の状況として、1588年5月に加藤清正と小西行長が半国領主（清正は白川以北9郡19万5000石、行長は白川以南4郡14万石推定）として任命された。

・町への提言 陣ノ内城跡に続く道をわかりやすくして欲しい。道案内の看板をもっと増やして欲しい。自動車で行きやすいようにして欲しい。甲佐町の人（子供）が陣ノ内城跡についての認知度をあげる策を募集する。アンケートやクイズを実施する。バスの乗り入れ場を広げて欲しい。



・町への提言をまとめ、田中先生に課題点について講演をいただき、さらにブラッシュアップを行い、明確化に取り組む。

・甲佐高校生で、陣ノ内城跡に行く道の足元のぬかるみを除去する。ポスターや看板を甲佐高校生で作成し、熊本バスにも広告を出す。小西行長がキリシタン大名なのでクリスマス前など、城跡をプロジェクション・マッピングでライトアップし、今はなきお城を作る。

4 探究の課題（まとめ）と展望

城跡の意義も分かり、活用については、具体的提言ができるようにしたい。特に、町のシンボルである城づくりは、防災の観点からも町を守るしくみがあり、さらなる探究が必要であることがわかった。探究活動は、今後も継続することを誓いたい。

熊本県立甲佐高等学校

